【編集後記】

『部落解放研究』第 32 号をお届けする。特集の「部落問題研究と戦争責任――新しい関係の創造のために」のほかには、サウザー・アシュリさんの「ガザの時代に（再）定義される人種差別―大量虐殺、人種主義、資本と国家―」のみの投稿になった。アシュリさんの論文は、イスラエルのガザ攻撃に反対する人々の声が「反ユダヤ主義」のレッテルを貼られてかき消される、アメリカ国内の構造問題を分析している。それは、アメリカ帝国主義がアラブ系住民を西欧文明にたいする脅威とみなす問題とともに、アメリカ左派が「文化戦争」論で問題の本質に切り込めないために、人種差別（そして反人種差別）が人々を分断し支配するために利用され続けていることに由来すると述べている。カミュの小説をメタファーに使用していることは興味深い。今にも世界戦争が始まるような雰囲気のなかで、特集とともに参照すべき論考だと思う。

ということで第 32 号は、見ての通り、論文数はきわめて少ない。エントリーが少なかったうえに、土壇場でキャンセルが出たからである。エントリーには毎号ばらつきがある。だがキャンセルは、毎号のようにある。忙しかったというのがキャンセルの理由である。彼らによると、どうやら、締切日までに投稿した人は暇人であるようだ。査読を希望しておいて、その査読が気に入らないという理由でキャンセルしたケースもある。どのキャンセルも、気が遠くなるほど待たされたあげくのことである。当誌は、研究者も運動家も投稿を受け付けている。今のところ、キャンセルする人は研究者に限られる。

この 32 号から、紙に印刷された『部落解放研究』は廃止され、電子出版になる。定期購読者、会員、投稿者には ID とパスコードが配布され、無料で何回でもダウンロードができる。創刊号からすべての号が、すでに PDF ファイルで広島部落解放研究所のホームページに格納されている。特段の必要で紙の紀要が必要な場合は、オンデマンドで供給される。

2025 年の夏以来、当・広島部落解放研究所は会員増強のキャンペーンに取り組んできた。法人会員、個人会員ともに一定の増加をみた。増加した会員が、会員として本誌を ID とパスコードで受け取ることになる。筆者個人としては、できれば印刷された紀要を配りたいと思うのだが、明らかにそのような時代ではない。（K）